

2024年度 大阪公立大学個別学力検査(一般選抜 後期日程)

小論文 文学部 「解答例・出題の意図」

解答例

第1問

文化相対主義とは、恣意的な基準でさまざまな文化に序列をつけることに反対し、それぞれの文化の独自性を認め、それらを対等に扱う思想である。それはほんらい人種によって社会的な処遇を違える人種主義から脱却するための思想でもあった。にもかかわらずヨーロッパにおいて、文化的背景の異なる移民やかれらの訴えに配慮することに反対する新人種主義は、その思想を逆の目的に利用して自分の立場を正当化していること。すなわち、文化相対主義の「それぞれの文化の独自性を認めるべき」という部分を持ち出して、「文化が違うのだから社会的な扱いが違って当然」と、人種による差別的な処遇を正当化するためにこそその思想を用いていること。(298字)

第2問

人種主義とは人種にもとづく差別的な処遇を正当化するものであり、そのような処遇は歴史的に形成された人種の序列の上位の者から下位の者に対して行われる。ある人種がどんな人種かを勝手に決めることもまた、この序列の上位の者が下位の者に対して行うことである。したがって自分の認識とは異なるアイデンティティを与えられる経験は、人種の序列の下位に置かれているがゆえの経験であり、人種主義の対象になることだと言える。(199字)

第3問

筆者によれば、「人種」という考え方は、西洋による植民地主義を通して白人を上位に非白人を下位に置く思想であり、差別する側／差別される側双方にとって自他の区別を基にするアイデンティティの問題でもある。また筆者は、人種差別が歴史的に繰り返され、文化相対主義のようにそれを是正する考え方も提示されてきたが、現代世界でも新人種主義などのように形を変えて存続している、と考えている。このような西洋的な人種観は、今の日本にも確認される。例えば、明治以降の日本がアジアの中で近代化と西洋化を進める段階で、日本人は、一方で白人への劣等感を持ち、他方で日本の植民地支配下に置かれたアジア人(非白人)への優越感や差別意識を持ってきたのではなかろうか。つまり、西洋的な人種観は、アイヌ民族、琉球民族、在日コリアンなどに対する民族差別として過去に日本社会に定着し、今日も一部残っていると思われる。こうした人種観に基づく差別は、過去の日本の植民地主義に関する歴史教育の徹底、少数民族の文化や言語、社会的権利などの制度的保護、あるいは差別がもたらす社会経済的格差を是正する政策などの取り組みによって改善されるべきである。(495字)

出題の意図

第3問

次の点を見ることを意図した。

- ①筆者のいう「人種」の考え方を的確に理解し、それが西洋を中心とする植民地支配の過程で歴史的、社会的に形成されたものであることを把握することができるか。
- ②そうした西洋的な人種観を、日本社会はどのように取り込み、どのような形で定着させてきたか、また具体的にどのような差別的行為として存続しているかを、自分なりの判断や経験から説明しているか。
- ③上でとらえた、日本人の人種観や日本における人種差別を是正するために、具体的にどのような取り組みが実効的になされうるかを提案しているか。